

令和5年度 都城市立中霧島小学校 学校評価結果

教育目標：ふるさとを愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成

4：期待を上回る（90%以上） 3：期待どおり（89%～70%）
2：期待をやや下回る（69%～50%） 1：改善を要する（49%以下）

	評価項目	取組内容	評価結果(アンケート)			自己評価	自己評価コメント	学校運営委員評定	学校関係者評価コメント
			教職員	児童	保護者				
教務研究	授業改善による学力向上	・児童主体の授業づくり	2	4	3	3.2	学校全体の取組として、国語科を中心とした「読む力」を育てることに重点を置いた指導を行っている。特にICTの活用などによる協働的な学びを取り入れることで、主体的に学習している実感を児童がもつことができていると考えられる。また、AIドリルによる個別で効果的な復習の機会を得ていることも児童の評価が高い要因ではないかと考える。課題としては、学習への自己肯定感の高い児童たちであるのにも関わらず、学力の伸びに繋がっていないことである。学びへの意欲を損なわずに、基礎学力を身に付けさせ、課題に対応できる力を伸ばす手立てをとることが肝要となる。	3.2	(ICT活用に関して) 低学年でもタブレットを使いこなして学習する姿をみて将来が楽しみであるが、筆順の習得なども考慮してほしい。SNS利用の広がりや影響し学習に向かう態度を阻害することは心配である。 (学力向上に関して) 先生方は熱心に授業をされているが、児童は基礎学力に個人差があると感じる。ある程度は仕方がないが、指導に苦勞されているのではないかと。児童の評価が4であることは素晴らしく、学びに向かう態度が高いことは学力向上には欠かせないことである。
		・習熟を図る時間の確保	3	4					
		・読み書き計算等の基礎学力定着	2	4					
		・ICTの活用推進	3	4					
知育	学習習慣・態度の育成	・山田ブロック9年教育の徹底	3	3	3	2.7	中学校区として一貫した指導をするため、「山田ブロック9年教育」を定めているが、目指すところを実態に合わせて見直していくことも必要ではないかと感じる。また、掲げるだけではなく、実践にどう落とし込むか、具体的に共通理解して指導に当たっていききたい。特に家庭学習については、児童の評価が高く、教職員・保護者の評価が低いという実態から、学校からの課題(宿題)を解けば十分と考える児童と、家読も含め、十分な時間、内容のある学習をしてほしい教職員、保護者の間で差があることから、目安とする内容、量、質についても検討していきたい。読書については、学校図書館貸出冊数が1万冊を超えるなど、取組の成果が出ている。家読につなげる工夫を更にしていきたい。	2.4	(読書量の向上について) 貸出冊数が多くなってきていることは、国語だけでなく他の教科の理解力向上が期待できる。保護者が1の評価を出すということは、見える形での実感がもてていないということだろう。 (家庭学習について) 特に、家庭学習についての児童の評価の高さを見ると、宿題をすれば十分という考えがあると思う。児童は宿題の他にどのような学習をしたらよいか分からないのではないと思う。保護者の評価も低いが、家庭でできることもある。学力を向上させるためにも保護者の理解と協力を得て、家庭学習の内容を充実させるよう導いていってほしい。
	特別支援教育の充実	・月の学習目標へ意識づけ	4						
		・個別の指導計画作成	4						
	家庭学習の充実	・指導方法の工夫改善	3						
		・家庭教育の手引きの活用	1	4					
読書活動の充実	・家読の推進	2	3	1					
徳育	基本的な生活習慣の定着	・中小よい子のさまりの徹底	3	4	3	3.5	あいさつ、ボランティア活動については、100%の児童が「できている」と評価している。全校挙げて取り組み、全校集会で褒められるなど頑張っていることを認められることが、継続できている要因ではないかと考えられる。 いじめ対策については、毎月全職員で共通理解をする時間を取り、児童のアンケートや観察から些細な変化を見逃さないようお互い心がけている。また、道徳の学習においても、授業を保護者に公開することで家庭、学校が連携して心を育むことに取り組んできているが、更なる授業の充実を目指したい。今後も児童が「学校が楽しい」と登校し、保護者の方も児童が頑張る姿を安心して見守れる学校づくりを目指したい。	3.8	(あいさつ・ボランティアについて) 朝、行事の時など進んであいさつをしてくれるので、あいさつをすることの定着は見られていると思う。ボランティアに対する評価も高く、意識してとり組んでいる様子が見える。元気なあいさつの声もよい。6年生が行った地域の清掃ボランティア活動は、ボランティアの幅を広げ、地域とのつながりにもなってよい。 (いじめ・人権について) 一見学習とはかけ離れている徳育の分野こそが、学校と一緒に保護者がとり組むべきことだと強く感じる。道徳の授業などでの子供の気持ちや感想などをもっと発信して目に触れる機会があるといい。児童が自分たちの人権意識について振り返ることもあっていい。また、小規模校でクラス替えがないからこそ、いじめがあってはならないと強く感じる。
		・4つの「あ」の常時意識化	4	4					
	体験活動の充実	・道徳の学習の充実	3						
		・異年齢集団での活動充実	4						
	人権教育の推進	・いじめのない学校づくり	4		4				
		・自他の人権の尊重	3						
	環境教育の推進	・無言清掃の徹底	3	4					
・ボランティア活動の推進		3							
体育	健康・安全な生活習慣の育成	・運動、栄養、休養の意識化	3	4	3	3.2	屋外で遊ぶ児童が多く、総じて元気である。小規模校ながら児童数が増えており、教室に密集している実態もあるので感染症の時期には過ごし方に気を付けているが、流行しやすい状況にある。不定愁訴の状態での欠席が見られ、欠席が0になる日がないことから、家庭と連携して児童の心の面を支える必要もある。 給食指導については、衛生と安全に気を付けながら効率のよい楽しい給食の時間がもてているが、アレルギー等家庭との連携を今後もしっかりとっていききたい。 メディアコントロールについては、学校でも端末を活用した課題を出すようになってきているので、時間が長くなる傾向もあると思うが、節度ある利用の仕方と長時間利用による心身への影響を繰り返し児童本人に伝えていきたい。	3.3	(体力向上について) 運動会では、児童がはつらつとチームワークよく競技に取り組む姿がみられ、体力向上に努められているのが感じられた。コロナ禍の体力低下が言われる中、昼休みにも多くの児童が外で遊んでいる姿も見られる。地域での外遊びは公園などでもあまり見かけないが、クラブチームの練習、習い事もしくは自宅でゲームなのかなとも考える。 (メディアコントロールについて) メディアコントロールについての保護者評価が低いことは、ゲーム等のやり過ぎがあるのだろう。本来は家庭が管理すべきことではあるが、コントロールが難しいのだろう。社会全体の問題である。学習意欲の低下との関連も予想される。スマホをもつ児童も多くなっているので、学校だけではなく家庭でもしっかり話し合いをしたりきまりを作って行かなくてはならないと思う。 (給食について) 山田の給食は品数や量が多いと聞く。給食の職員の方のご苦勞に感謝したい。
		・安全についての知識と知恵の定着	3						
		・適切なメディアコントロール	3	2					
	基礎体力の増進 (体力向上)	・外遊びの推奨など体力向上の取組	3	3					
		・教科体育・体育的行事の充実	3						
	食に関する指導の充実	・給食指導と「弁当の日」の取組	3	4					
	よりよい集団作りの推進	・立腰指導の実践	4	4					
・集団のルール、マナーの体得		3							
ふるさと	ふるさと教育の推進	・地域素材人材を生かした教育活動	2		3	2.7	本年度は、運動会での新山田音頭の復活と、霧っ子ふれあい祭りの実施でより地域とのつながりを意識した教育活動ができた。さらに地域や保護者との連携がとりやすいシステムを考えていきたい。	2.9	(運動会について) 運動会での新山田音頭は保護者や地域の方が多く参加し、一緒に踊る光景がよかった。今後も継続していただきたい。 (霧っ子ふれあい祭りについて) 相撲甚句踊りに多くの児童が参加して地域のつながりを感じられた。これからも伝統芸能にふれる機会をふやしてほしい。 (その他) 地域との活動は学校にとってもつながりが切り離せない。しかし、互いに無理のないように行えることがいちばんである。児童がどのように感じているか意見も知りたい。
		・伝統芸能の継承	3						